

令和5年3月5日（通巻第215号）

ボウルズ・ジャパン ブリテン

発行元：認定 NPO 法人ローンボウルズ日本 総務部

アジア選手権大会特集号

（総括） 第14回アジア選手権大会および第12回アジア U-25 大会

期間：2月20日（月）から26日（日）まで

会場：マレーシア・イポー市の公立ローンボウルズ競技場（インドア・カーペット）

参加国：マレーシア、タイ、フィリッピン、香港、シンガポール、インド、日本、
スリランカの8か国

出場種目および結果：残念ながらどの種目も予選敗退となりメダル獲得はならなかったが、
今一步のところまで行っている種目もあり、今後に期待できる材料は得られた
ので、次のステップにつなげるようにしたい。

種目	選手名	予選ラウンド結果	
男子	シングルス	小山 潤 (LC 京都)	1勝(スリランカ)、2敗(タイ、インド)
	フォアーズ	大平 貴士 (オーストラリア)、廣内 鐵也 (LC 京都)、 合田 純二 (学園ワイズ)、江村 健一 (LB 東京)	1勝(シンガポール) 2敗(マレーシア、フィリッピン)
	ペアーズ	江村 健一、小山 潤	1勝(インド) 2敗(マレーシア、フィリッピン)
	トリプルズ	大平 貴士、廣内 鐵也、合田 純二	3敗(フィリッピン、インド、タイ)
	コーチ	井上 博樹 (LC 京都)	
女子	シングルス	合田 洋子 (学園ワイズ)	3敗(マレーシア、インド、香港)
	フォアーズ	阿比留さゆり (LC 京都)、黒原 恵子 (オーストラリア)、 松岡 緑 (オーストラリア)、江村 裕子 (オーストラリア)	1分け(フィリッピン) 2敗(タイ、香港)
	ペアーズ	黒原 恵子、松岡 緑	3敗(フィリッピン、インド、タイ)
	トリプルズ	阿比留さゆり、合田 洋子、江村 裕子	1勝(シンガポール) 2敗(マレーシア、インド)
	コーチ	島 美里 (LC 京都)	
U-25	男子シングルス	島 隆叶 (LC 京都)	4敗(マレーシア、フィリッピン、 タイ、シンガポール)
	女子シングルス	島 瑚々奈 (LC 京都)	3敗(マレーシア、シンガポール、香港)
	ペアーズ	島 瑚々奈、島 隆叶 (LC 京都)	5敗(マレーシア、フィリッピン、 タイ、シンガポール、香港)
	コーチ	島 美里 (LC 京都)	

(選手団長からの報告)

団長 (キャプテン) : 松岡緑

私は、今回のアジア大会への参加は4回目です。今回は BJ として初めての試で、まず国内選抜チームを作り、トレーニングマテリアルも用意し目標を決めた大会であった。

しかし、前回から大きくランキングを落とし目に見える結果には至らなかった。それは団長として責任を感じる事が大きい。

まず、なぜ日本チームがうまくいかなかったのかに関しては、

1. 私個人の調子が上がらず、大会に向けての調整に失敗したこと。大会にピークを持っていくために随分前から練習に入っていたものの、会場入りが遅く、コンディションに慣れずに結果に反映した。You Tube でマレーシアの National Team がイポーで試合しているのをみて難しそうだなと思っていたが、それはセンターラインがないためと勝手に解釈して、これほど難しいとは思わなかった。グリーンへの対応を甘く見た結果が出てしまった。前回の銀、銅メダルでうまくいったからといって必ずしも今回もうまくいくとは限らないとはわかっていたものの、単なるカーペットと侮った、特に Conversion がなんともならなくて、相手に取られると取り返すのに大変苦労した。
2. また対戦相手が確実に進歩しており、前回に比べてかなり強くなっていた。スキルのみならず、チーム作りをきっちりしてきたことは相手側にとって大きなアドバンテージとなり、我々のように各地から俄かに集まったチームではチームダイナミクスが構築されずに単に個人のプレイにたよるばかりになり、男子フォーズでややうまくいったように思えるものの、それ以外では相手に比べてかなりの差があったと思う。
3. また相手のアドバンテージとして、チームが同じボウルを使用した場合が多く、アンジュレーションのきついグリーンではいかに先にラインを見つけるかが鍵となるが、その点は相手国がかなり優っていた。日本の場合は個々で別々のボウルの場合が多く、ラインを把握するのに時間がかかった。特にロールアップがないのでその影響は大きい。
4. また、今回マレーシアの段取りがギリギリになって変更されることが多く、コミュニケーションやマネージャー業務にかなりの時間を割かれてしまい、試合に対する集中力が欠けたことも否めない。専任マネージャ1名おいてはいたが、結局本部との連絡や交渉を司ることになり、随分手間がかかった。
5. 特に広報関係は予定していたフェイスブックへのアクセス権が得られず (以前から理事会ではお願いしていたが、全く準備されておらず)、個人の発信に頼るものしかできなかったことは極めて残念。
6. チームの構造は海外組+日本国内組で構成しており、それは今後も変わらないけれども、過去4回は海外組の出来次第で、結果が成り立った。しかし今回のチームは十分、チームダイナミクスが構築できる可能性があり、雰囲気はよく、課題点や問題点話し合いがフランクに行えたことから、今後はチーム全体として貢献できる期待を感じた。
7. さらにジュニアは注目されて今後も大いに期待できる。

今後の課題として、まずは専任のマネージャーを男女1名ずつ置くこと。コーチではなく、団長でもなく、それはマネージャーであること。

準備は十分行い、チームの構築を行う。それは個人ベースの準備のみならず、チームでの準備や、団体行動（集合時間、ウォームアップ）などはチームで考えてみんなで取り組むべきと思う。

副団長（副キャプテン）：小山潤

今回のアジア大会では、昨年から BJ 技術強化部として選手の強化プログラムを作り、それに基づきドリルや強化練習会、ミーティングなどのトレーニングを実施してきたため、その成果を結果で示したいと思っていました。

しかしながら、結果は全てのカテゴリで予選敗退となり、良い結果を出すことが出来ませんでした。とても残念に思っています。

そのような中でもポジティブな事としては、14人の選手団の中で国際大会に初めて参加した選手6名が、どの選手も物怖じすることなく、良いプレイをたくさんした事です。

国際大会の独特の雰囲気や、ゲームの質の高さ等、現地でしか感じられないことはたくさんあります。中には、それに飲まれ、本来の力を出す事なく大会を終える選手もいます。そんな心配は杞憂に終わり、一人一人が日本の勝利のために、コミュニケーションを取りながら、いち早くグリーンや大会の雰囲気に適応し、また、最後まで粘り強く戦いました。この経験は、必ず次に繋がって行くと感じています。

8月末から始まる世界選手権大会には、もうあと半年程しかありません。今回結果を出せなかった私たちとしては、自分の課題を見つめ直し、まずはそれぞれの所属先で、トレーニングをする必要があります。特に、卓越した技術と豊富な経験がメンタリティの大きな支えとなるため、前者を磨く必要性をとて強く感じています。感覚だけに頼らず、どのような場所でも戦うことが出来る普遍的な技術をそれぞれが磨くことで、必ず勝利に近づきます。良い経験が出来た、良い試合が出来たではなく、チーム JAPAN として、勝てるチームにしていきたいと思えます。

マネージャー：井上博樹

今回、私はマネージャーとして参加させて頂きました。

大会前日マネージャー会議に森さんと共に参加し、各国の方々との話し合いの中、和気藹々の雰囲気と共にローンボールズを楽しみたい！と言った各代表の思いを感じ、緊張ではなく、アジアからの出場各国の人々への親しみを感じました！

しかし、大会がスタートしてからは、各国のレベルの高さ、また勝つ為のひたむきな思いをヒシヒシと感じました！ それぞれの選手の集中力、各チームの団結力！ そのエネルギーに圧倒される思いでした。聞けば殆どのチームは大会開始の数日、または1週間前から会場入りし練習を重ねているとのこと！ 既にこれでは戦う以前に勝負あり！ で御座います。

勿論、日本チームメンバーにはそれぞれ経済的な事、都合のある事は承知してはおりますが、本当に勝利を狙うので有れば他国に遅れを取ってはいつまでたっても結果は変わらぬ事と思えます！

チームワークについても、メンバーでの集合練習と互いのつながりを深める為には数日前には会場入りし、意思のつながりを深める必要性を感じました。

アンダー25について：井上博樹

今回、島家兄妹が参加致しました。

この2人は私と同じく京都チームである事から以前より周知の間柄で御座います。当初は幼く遊び半分か、と思える状況で、日本代表としての認識もあるのか否か、と言った状態でした！ところが大会が始まり前半のシングルス、後半のペアーズと回を重ねる毎に向上し、ペアーズでは、いかに劣勢であろうとも、常に2人で寄り添い話し合う姿には心が熱くなる思いでした！仮にミスが有っても常に前向きに、互いに励まし合い、勇気づける言動！この姿こそがチームプレーに於いて最も重要な姿で有ろうと再認識した次第で御座います。我々も互いに互いを思いやり、更に熱い思いを共有し、プレーに臨む事で勝利に近づけるものとの思いを新たに致しました。



日本選手団全体写真

(選手へのアンケート結果)

帰国後に選手全員（U-25は除く）へのアンケート調査を行った。

詳細データは紙面の都合で省略するが、各評価項目について5の「非常に良かった」から1の「非常に悪かった」までの5段階評価で点数を付けてもらい、その平均値を算出した結果は次のとおりとなった。

評価項目	自己評価の平均値
大会参加に備えての練習、準備は良かったと思うか、どうか？	2.6
大会中の自分のパフォーマンスは良かったと思うか、どうか？	2.5
大会中の自分の体調は良かったと思うか、どうか？	3.8
各種目別チームのチームワークは良かったと思うか、どうか？	3.6
各種目別チームのチームワークは良かったと思うか、どうか？	3.7

ここからわかることは、全員が練習不足、準備不足を感じており、それが自分のパフォーマンスに反映されて、結果が出ずに終わってしまったと感じていることである。

一方、チームワークは寄せ集めのチームでありながらそれなりにできていたと思われる。しかし、他の国に比べるとチーム力の差がまだ歴然としており、この程度で満足してはいけないとは思っていない。体調管理については、寒い国から真夏に近い気候の国にやってきて試合するという環境の急変にも関わらず、風を引いた1名を除いては良好であったと言える。

